

第68回北関東医学会総会

ワークショップ

「保健学科設置25周年、保健学研究科設置10周年を迎えて」
開催されました。内容の一部を発信します

2021年10月1日



保健学科のあゆみとこれから

横山研究科長から

「1996年、短期大学から医学部保健学科へ、2001年には医学系研究科保健学専攻博士前期課程、2003年では博士後期課程が設置されました。

2007年から数々の大型外部資金（G P）を獲得、実績を重ねて2011年に保健学研究科として独立しました。

2013年にはWHO協力センターに指定、国際的なシンポジウムやIPE教育をさらに発展させました。

現在は次世代指導者・教育者・研究者養成のミッションのもと、さらに新しい保健学科の在り方を検討しながら飛躍したい。」



住民のニーズに応える看護

佐藤看護学専攻主任から



「看護は学士課程では1,800人を超える看護職（看護師・保健師・助産師）を輩出しています。

また、高度なレベルの看護専門職としてがん、老年、慢性疾患、母性の専門看護師は50人を超えています。

本学の看護の特徴は、①群大附属病院と連携して数々の看護専門外来を開設していることです。この外来は教員が病院スタッフと協働で運営し、診療報酬も獲得しています。また、②カリキュラムは病院完結型から地域完結型看護に転換し、地域住民のニーズに応える看護職の育成に努めています。今後は他専攻とともに学際的な研究に取り組み、看護の知的成果を発信したいと考えています。」

新たな役割が期待される臨床検査技師

齊藤検査技術科学専攻主任から

「臨床検査技師は臨床力と科学力をもつ専門職です。

検体採取から診断補助までの幅広い役割を担い、患者様と直接、触れ合う機会をもちます。教育では、全人的医療とチーム医療教育を強化しており、また、豊かな人間性と確固たる倫理観を養うために力を注いでいます。

本学卒業生は臨床検査技師、細胞検査士としての役割に加えて、治験コーディネーター、製薬企業や医療機器メーカー、研究職や大学教員と幅広い活躍をしています。

今後は研究成果を国際社会に還元できる、研究力のあるリーダーを育てていきたいです。」



新しい教育手法で幅広い人材を育成

臼田理学療法学専攻主任から

「理学療法士は近年、急速に増加している専門職です。そのため医療の場だけでなく、福祉やスポーツなどの幅広い領域に理学療法が普及しています。

本専攻では、新しい教育手法の導入や教員間の共同研究に取り組んでいます。これより、学生の能力を引き出す効果を得ています。

また、モンゴルやアメリカなどの国際交流は長い歴史があり、交流できた学生数は多く、幅広い視野を養っています。

近年では成長期にある小児や成人期にあるスポーツ選手に対するサポートなど、地域貢献も積極的に行っています。」



豊かな国際交流のなかでの教育

李作業療法学専攻主任から

本学作業の特徴として、学習型と支援型の2つの軸の国際交流を進めています。

学習型はリハビリ先進国（アメリカなど）に出向き新しい知識や技術を取得することを目的としています。支援型は途上国（モンゴルなど）に出向き、人々の生活を体験し、専門職の役割を考えることをねらいとしています。

2001年に作業療法学の国際交流事業が始まって以来、これまで多くの学生や教員が参加しています。
2018年モンゴル初の作業療法士誕生にも寄与しました。



*群大保健学科は記念式典を企画しています。日程等が決まったら発信します。

まとめ：保健学科広報委員長 内田陽子